

県議がつくった

石川の財政〈第29号〉

頻発する自然の脅威から身を守るために！

（県内における集中豪雨、地震、クマの出没）

石川県議会議員

むろや
室谷ひろゆき



① 豪雨災害に備えた 流域治水対策

- 本年、線状降水帯による集中豪雨により、県内各地で甚大な被害が発生。

県民の安全・安心を確保するため、流域のあらゆる関係者が協働して取り組む「流水治水」の考えに基づいたハード・ソフト面での対策を県下全域で推進中！

- | | |
|----------------|---|
| ○
ハード
対策 | <ul style="list-style-type: none">① 抜本的な河川改修の促進（県下全域18河川）② 河川の堆積土砂除去③ 小規模河川における堤防の強化④ 砂防・治山関係施設、森林、雨水貯留浸透施設の整備⑤ ため池の改修、農地・農業水利施設の整備 |
| ○
ソフト
対策 | <ul style="list-style-type: none">① 小規模河川における洪水浸水 想定区域の指定・公表② 内水浸水想定区域図やハザードマップの作成（市町）③ 立地適正化計画（防災指針）の策定（市町）
水害リスクの低い地域への居住誘導④ 住民の避難行動の支援<ul style="list-style-type: none">・ ハザードマップや避難方法をわかりやすく開設し、
「マイタイムライン」の作成を支援するリーフレットを配布・ 県政出前講座を開催⑤ ダムの事前放流、排水機場による事前排水⑥ 田んぼダムやため池の事前放流の取り組み |



- 線状降水帯の脅威 — 短時間に同じ場所を通過または停滞することで、線状に伸びた地域に大雨を降らせる。



本年、県内各地での被害を見てもわかるように、今後も続く可能性がある。これほどの線状降水帯による大雨が降り続いた場合、ハード整備の充実強化（河川の拡幅や堤防整備）の対策でも想定を超える災害をもたらす場合、有。



- ハード対策だけでは難しい「近年の短時間の集中豪雨」から身を守るために！

「マイ・タイムライン」（私の逃げる計画）を日頃から作っておきましょう。



➡ 大雨時等、水害や土砂災害から逃げる準備、取るべき行動を考えておく。
(いざという時に、あらかじめ考えておかないとなかなか避難行動がとれない方が多い。)

- ① そのために、どんな危険が自分の住んでいるところや身の回りにあるか
「ハザードマップ」で確認しておきましょう。
- ② どこに、どうやって逃げるかを考えておきましょう
- ③ 「いつ」逃げるか = 「避難情報」 ➡ TVのテロップ・ラジオ、防災行政無線、



石川県防災ポータル（スマホ） etc

質問(室谷)

最近の天災の注意報道があっても、つまり、大雨が降ると未然に知らされても、もうほとんど慣れてしまって、県民と話をしていると別に自分とは、大丈夫やろという考えの方が多くなってしまっていると感じます。とはいえ、いざ線状降水帯で短時間に降ってしまったら、あれよあれよという間に被害を被るような事態がおきています。

先日の災害県土強靱化特別委員会でも、近年の短時間集中型の豪雨に対応していくためには、部長は、どれだけのハード対策をしても万全といえるものではなく、ソフト対策の充実強化の必要性に触れられておりましたが、県民にそのような対応、いわゆる今の災害は、もう昔と違う、これだけのハード対策をしていけば、防げると想定していても、線状降水帯が居座れば、想定外の被害も起こりうる。だからこそ、県民にソフト対策、自身のとりくみをもっともっとアピールすべき。問う。

答弁(土木部長)

そのとおりで、去年の小松のときもそうでしたし、今回、土曜日、被害の現地も回らせていただきましたけれども、ある決まったエリアに、例えば今回は、富山と石川の県境の津幡とかほくの山のところに集中的に降りましたが、山なのでこっちに流れてきますから、そこだけに集中して降っているので、谷筋が一つ行くともう大変なことになっていて、道路ののり面も崩れる、川もあふれるという状況なんです。

私共としましたら、こういういろんなことを取りまとめさせていただいて、いざ、まさかのときになったらこういうことになりますからと、地道に県民にお伝えしていく。

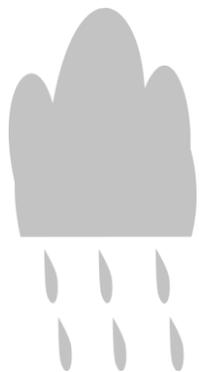
とにかく、自分の命をまず大事にさせていただいて、浸水想定区域図というものが今あらかた仕上がりましたので、一度はそういうものを県民に御覧いただき、災害が来るとすればこれだけかというところを御家族とか地域で話していただくだけでも、また、いざというときには、すんでいる地域にこれだけ雨がくるのなら、どうするかということを考えていただくだけでも、まさかのときには大分違うのではないかと思います。

県民の皆様にそういうことが伝わるようにいろいろ工夫をしていきたい。

○ **どの警戒レベルが出たらどう行動すればいいの？**



警戒レベルは 災害発生の危険度が高くなるほど数字が大きくなります。



警戒レベル1	気象庁より[早期注意情報]が発表されたら ！
	災害への心構えを高めてください。
警戒レベル2	気象庁より[大雨注意報 /洪水注意報]が発表されたら ！
	避難場所・避難経路など自ら避難行動を確認しておきましょう。
警戒レベル3	市より[高齢者等避難]が発令されたら！
	避難に時間がかかる高齢の方や障がいのある方、避難を支援する方などは、危険な場所から安全な場所へ避難しましょう。
警戒レベル4	市より「避難指示」が発令されたら！
	対象地域の方は全員、速やかに避難を危険な場所から避難して下さい。

～ 警戒レベル4までに必ず避難を ～



警戒レベル5	市より[緊急安全確保]が発令された段階では安全な避難が難しい状況です！
	その場で取ることができる少しでも身の安全を確保するための行動をとるよう にしましょう。

○ 本年の出水期より、豪雨災害に備えた〈農地・農業水利施設を活用した流域治水対策〉を試行

(1) 田んぼダム

田んぼの排水口に流出調整板を設置し、雨水を田んぼに一時的に貯水し、ゆっくり流出することで被害を軽減 . . .

(水稻の生育に影響がない範囲で貯水)



(2) ため池の事前放流

降雨時に、あらかじめ、ため池の推移を下げ、雨水を受け入れる〈空き容量〉を確保し被害を軽減。



(3) 木場潟の事前放流

大雨が予想される場合に、あらかじめ既存の 今江潟排水機場を稼働し、木場潟の水位を下げて、雨水を受け入れる〈空き容量〉を確保し被害を軽減。

② 地震による死因の9割は、住宅の倒壊によるもの

本年の度重なる県内での地震を踏まえて、県内には未だ耐震化していない住宅がかなりあります。(105100戸：H25年度調べ) 地震の発生を阻止することは難しいことですが、地震から生命財産を守るため、住宅・建築物の耐震化を！

質問(室谷)

石川県耐震改修促進計画では、2025年までに95%の住宅の耐震化を目標としている。



旧耐震の住宅に対する支援は今もありますが、ここ数年コロナ禍の経済低迷もあって進んでいない。

耐震化の啓発支援を強化し、地震に強い災害から県民を守っていく取り組みを問う。

答弁(土木部長)

まさに今回その地震の被害を目の当たりにして、住宅の耐震は何より大切だという思いを新たにしました。本県では全国でも手厚い、国、県、市町が連携して合計150万を定額で補助する制度を行っています。昨年の実績だと、県全体で耐震診断の補助は109件を補助しています。改修は59件という状況です。

まず何度も何度も啓発して耐震改修していただくしかありません。この珠洲の地震を受けて、5月19日には珠洲市でも住まいの耐震化相談を行ないました。地震でいろいろ被害に遭われた時が一番耐震化に思いが向いていると思うので、周知を図って、耐震診断・耐震補強への取り組みを皆さんにわかっていただけるように行っていきたい。

3 クマの人里への出没が増えてきています。(被害にあわないために！)

- 本年、加賀市内においてクマの出没件数は県内トップクラスという状況であり、市民が日頃より人身被害にあわないために、いざという時の対処について考えていくことが大切です。

※ **本年7月19日8時35分頃 成獣のクマが観光施設へ侵入 !!**

— **地域住民は大変な思いをしました。**

- 加賀市におけるツキノワグマの目撃情報

年	/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
R2年	175件	0	0	0	0	7件	3件	7件	2件	12件	86件	55件	3件
R3年	13件	0	0	0	0	2件	6件	5件	0	0	0	0	0
R4年	25件	0	0	0	0	8件	6件	5件	0	0	4件	2件	0
R5年	未定	0	0	0	1件	9件	13件						

※ 令和三年、令和四年はコロナ禍ということもあり、散歩や山菜・キノコ狩りなど外出を控える方が多かったため、目撃が少なかったという意見も有。現在、県内に生息するクマの推定個体数は増加傾向にあると言われています。

➔ クマの 出没が多かった令和二年には、加賀市内で五名の方が人身被害を蒙っています。
又、駅前の大型商業施設内に成獣一匹が13時間も居座り 全国ニュースにもなりました。

被害の状況

- ① 山代温泉地内 10月午前 : 70代女性が 神社内において襲われた (中等症)
- ② 山代温泉地内 10月午前 : 80代女性が 仕事中に 車に乗り込むところを 襲われた (中等症)
- ③ 山代温泉地内 10月午前 : 男性 (年齢未公表) 市街地で 襲われた (軽傷)
- ④ 山代温泉地内 10月 夜 : 70代女性が 住宅地を歩いているところを 襲われた (軽傷)
- ⑤ 動橋町地内 11月夕方 : 60代男性が川沿いの遊歩道で 襲われた (中等症)

質問(室谷)

上記のような人身被害や前年の 大量出沒を踏まえて本会議での代表質問を行った。

[令和3年]

答弁(知事)

藪の刈り払いによる緩衝地帯の整備など、被害防止対策の徹底を図った。

ブナの豊凶予測調査をしっかりと行い、住民への注意喚起の徹底に繋げていく。

さらに、捕獲体制の強化を図るため、市町においては国の助成制度も活用し、捕獲檻の早期増設に取り組むほか、技術の向上のための研修や市街地での実際の出沒を想定した研修の回数を増やすなど取り組む。

質問(室谷)

令和5年7月19日加賀市内の観光施設へのクマ侵入を踏まえて、

昨日、熊が加賀の観光施設に侵入し、その後、9時間半探しても見つかなかったが、今後の対応を問う。併せて、本年のクマ出沒の現状も問う。

答弁(生活環境部)

観光施設に出たということ、非常に衝撃を持って受け止めたところですが、被害とかがなく、そこはよかったなと思うが、ただ、まだ捕まっていない、見つかっていないということで、そこは心配ではございます。

ツキノワグマの今年の現状ですけれども、今年1月から7月11日までの目撃件数は71件となっております。ちなみに、昨年同時期では177件ということです。

傾向については、近年の傾向ですけれども、春から夏にかけて熊の出没が増加傾向にあるということ。また、今みたいな人里近くで熊の出没が見られる。また、広範囲で熊の出没が見られるという現状にあります。

71件の多い順で言いますと、加賀市、金沢市、宝達志水というような順番になってございます。県では、熊の大量出没を未然にキャッチするというか、知るためにブナなどの木の実、そのなる状況の調査というのを1年間に3回やっておりまして、花が咲いた、雄花が落ちた、実がなったと。今、2回目が終わったところですが、2回目終わりました今雄花が落ちたという段階での調査結果は、ブナ、コナラは並作、ミズナラは豊作ということで、熊の餌はあるのではないかと、今のところ、秋の大量出没の可能性は低いとなっておりますが、昨日のように出没する可能性が高いということでございますので、先般も会議もし、市町に対しまして住民への注意喚起、それから熊を誘引する物の除去を徹底してくださいですとか、集落に隣接するやぶの刈り払いですとか、そういうようなことを要請するとともに、ホームページやリーフレット等を通じて注意喚起を行っております。県としては市町をしっかりと支援してまいりたい。

質問(室谷) 周辺住民は、かなり怖い思いしている、明日からの対応どうするのか。熊は、結局、どっか逃げている。

さて、熊が出没しにくい環境をつくるということで、生ごみを出さないとか周辺を伐採するとか、餌となるものをとりのぞくなどそういう取組しているということだが、そういうことをやっている中で、今年はそれほど凶作でもないと言われている中、熊にしてもわざわざ施設内に入ってくるというのは、よほどのこと。熊って本来そんなに冒険するような動物じゃない。

では、こういう施設に入ったときの対応というのはどうなっているのか、対策のマニュアルというのがあるのか。というのは、3年前、加賀の大型商業施設に侵入したときは、13時間かかった。最終的には、仕留めたけど、今後、熊が施設に入ってくることも考慮した取り組みを問う。

答弁(自然環境課長) そういうマニュアルでございますが、県ではツキノワグマ出沒対応マニュアルというのを作っておりまして、市街地等の出沒というのは想定しておりましてその中には「駅その他の多数の者の集合する場所」というところも想定範囲には入っているところです。

それにより、市町、警察、猟友会会員で構成されている捕獲隊が連携して対応することとなっております。今回もそれに基づいて対応したということになります。

質問(室谷)

そういう対応したということだが、そうすると、今後、できるだけ熊が里山に下りて
こんとか施設に入らないという取組をするためにいろいろとオートのカメラで写したりとか、捕獲
おりなんかもやっていると思うが、人が近づいて探すのは怖いからドローンなどの新たな取組なども
しながら、今後、まちなかに出てきてからではなくて、出没する前のとりくみ、未然防止に力を入れ
てほしい。

答弁(生活環境部長)

いろんな技術、ドローンとかいま、ありますからそのような機器みたいな
ものも活用して、いろいろ勉強しながら、できることは取り入れていきたい。

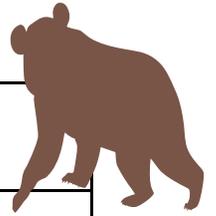
○ **熊の人里への出没が増えている原因**

- ・ かつて、山村の集落や田畑周辺の山林は、適度に人の手によって管理されていたので（下草刈りや木の間伐など）見通しが良く、熊もわざわざ危険を冒してまで里山に入ってくることはなかったのですが、近年、高齢化や人口流出などもあって、手入れする方々が少なくなり人の住む場所と熊の住む自然との緩衝地帯の荒廃が進み、人と熊の生活圏が隣り合わせになってきている。

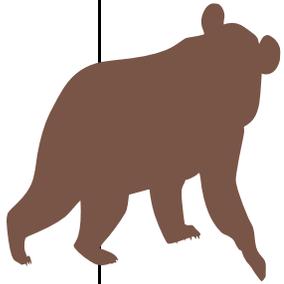
- ・ また、熊が人里に美味しい食べ物があることを知ってしまった。
 - ・ 異常気象等の影響で、その年のドングリ等が不作になると餌を求めて人里に降りてしまうことが多い。
- 加賀市は人の住む宅地と熊の生息域との距離が比較的近いこともあり、私たちの手入れ不足や管理の不十分さによって人里に降りてきやすくなってきています。
- 熊との関係〈自然との共生〉をもう一度、市民が再認識し取り組むことが大切な時代と なってきています。
- よって現在、山林と人間の生活圏を分かち、緩衝帯の整備をしっかりと行い、農作物や放置果樹、家庭ごみなどクマを誘引するようなものは、しっかり除去するなど人間自身が行きと り組むことによって人里への出没の抑制を図っていくことが求められています。
- また 下記の出没事例を参考にし「自分には関係ない」と、思わずに熊が出没しやすい場所 や季節時間帯の外出は、市民自らが注意して行動してください。これからの季節は過去の例 を見てもわかるように出没可能性が高いです。また、 出没地域はだいたい大別できます。



加賀市における令和二年の出没地域



5月	二ツ屋 山代温泉	大聖寺岡町 南郷町	河南町	二天町
6月	上野町	熊坂町	分校町	
7月	山代温泉	宇谷町	山中温泉 菅谷町	大聖町三ツ町
8月	大聖町三ツ町	直下町		
9月	山代温泉 山中温泉今立町	山中温泉 曾宇町	宇谷町 細坪町	河南町 山中温泉四十九院町
10月	白鳥町 山中温泉 分校町 松山町 箱宮町 小塩町 小坂町	河南町 熊坂町 橋立町 勅使町 横北町 栄谷町	山代温泉 大同町 曾宇町 加茂町 黒瀬町 尾俣町	直下町 幸町 永井町 作見町 森町 上野町
11月	山中温泉 山代温泉 箱宮町 河南町 二子塚町	大聖町三ツ町 南郷町 分校町 大聖町敷地 松が丘2丁目	熊坂町 森町 高尾町 加茂町	松山町 丸山町 二ツ屋町 大聖町下屋敷
12月	作見町	森町	弓波町	



○

市民ができること！

- ・ 住民一人一人が、日頃より 住居の周辺にクマの誘引物となる生ごみ、農業残渣、不要な取り残しの果樹などを放置しない。
- ・ 人家周辺にヤブ等の熊が潜みやすい環境がある場合は刈り払う。
- ・ もし、近隣で 熊が出没した場合は、市町の指示に沿って行動する。
- ・ また、学校等の校区でクマの出没があった場合には、児童生徒の通学時の安全確保のため、鈴の着用と被害防止に努めるとともに集団登下校を指導・実施する。



熊に遭遇してしまったら！

※ 熊に遭遇して冷静に対応できる人は少ないです。しかも、熊は野生動物であるため、対処法も必ずうまくいくとは限りません。できるだけ落ち着いて行動できるよう、いざというときに備えましょう。

- ・ **遠くにクマがいる場合**

落ち着いて静かにその場から立ち去りましょう。

（急に大声を上げたり急な動きをすると熊が驚いてどのような行動をするかわからないため注意しましょう。）

- ・ **近くにクマがいることに気づいた場合**

まずは落ち着くこと !!



クマは逃走する対象を追いかける傾向があるので、背中を見せて逃げ出すと攻撃性を高める場合があります。そのため、熊を見ながらゆっくり後退するなど、落ち着いて距離を取っていくことが良い。

至近距離で突発的に遭遇してしまったら

クマは攻撃的行動として、上腕で引っ掻く、噛みつくなどの行動を取る傾向が強い。顔面や頭部を攻撃されることが多いため、両腕で顔面や頭部を覆い、重大な障害や致命的なダメージを最小限にとどめることが重要です。

(クマ撃退スプレーを携帯している場合は、熊に向かって噴射することで攻撃を回避できる可能性は高くなります。)

※県議会質問等については、紙面の都合上一部抜粋となっています。

なお、詳細をお知りになりたい方は
【室谷ひろゆきホームページ】
をご覧ください。



HP1



HP2



県議が作った石川の財政 第29号 2023年 秋
県議会：金沢市鞍月町1-1 TEL076-225-1027 (代)
住所：加賀市山代温泉14の67 TEL0761-77-7839

〈討議資料〉



むろや